

発行：高齢者年NGO連絡協議会事務局

住所：〒140-0004東京都品川区南品川5-3-10-5F

TEL03-5461-0839 FAX03-5460-9820

取組の柱はイベントと高齢者憲章

・・・高連協に2つの部会発足・・・

1月7日の高連協定例会での承認を得て発足した2つの部会が、その活動を開始した。イベント部会と憲章部会がそれである。今日までの立ち上げの状況を見てみよう。

☆イベント部会

和久井総括を部会長に関係メンバーが集まって二度の部会を開催、そこでの方向づけをたたき台に2月12日の役員会で論議した。その結果を2月16日の定例会で全員討議に付し各会員の協力を要請する。イベント部会の任務は次の3つがポイントとなる。

一つは「イベントマップ」の作成。各団体からの報告をもとに、カテゴリー別、月別、主催者別にマップを作成する。空白部分はみんなの協力を得て完成度を高めるとともに、ディテールを詰めていく。

二つ目はイベントマップをもとに一つの流れ、シリーズを作り出すこと。今年の後半にシンポジウムを予定していても、時期やテーマが未定のケースが散見されるが、それらのテーマと時期を調整し、あるいは合同イベントにしていけることもあり得よう。たとえば、高齢社会対策大綱に則り「就業・所得」「健康・福祉」「学習・社会参加」「生活環境」の4分類にテーマをあてはめ、時期を考え、共催方式をも考慮に入れながら、高齢者年のイベントの流れや山場を作る工夫も必要と思われる。

三つ目は高連協としての、あるいは官民合同のイベントの可能性を検討すること。官庁のうち厚生省・労働省・総務庁は何らかの国際シンポジウムを企画しており、高連協に加盟の関係団体がそれぞれのシンポジウムに深い関わりを有している。しかも今年の第3四半期に集中しているため、テーマの選定に留意することで前述の流れを作り出すことができる。今後各省庁との細部の詰めを図ることが肝要と思われる。さらに、高連協独自の国際シンポジウムの可能性の検討も今後の課題といえる。

☆憲章部会

久野木総括を部会長とする憲章部会は、同じくこれ迄2回の会合を持ち今後の進め方を協議した。今後の進め方のポイントは次の2つに集約される。

一つはスローガンの策定。例示をもとに、2月16日の定例会に各団体が一編ずつ案を持ちより、その後部会での絞り込みを経て、3月の定例会で最終決定する。

二つ目は憲章の検討。国連5原則及び高齢社会対策大綱を下敷にして、幹事に有志が加わって、もうしばらくの間ブレインストーミング。その後広くメンバーの参加を募りフリーサロン風の論議を重ねて、9月15日の敬老の日をめどに憲章の発表を想定している。



ライフ・ベンチャー・クラブ

高齢者協同組合

☆活動のねらい

天真爛漫に、生涯冒険精神で、人生を楽しく健やかに生き、思う存分活躍しませんか！
年齢や性別を問わず、仕事であれ、地域活動やボランティア活動であれ、自ら得意とする分野で生涯現役の社会づくりに関わりたいと願う仲間が、最も活動しやすい場を、「生涯現役実践道場」として随所に展開している。

☆アピールポイント

- *創設以来13年余。155回を数える月例セミナーは、第1部が発題講演、第2部が全員参加の生涯現役実践研究会方式。
- *主な分科会を紹介すると・・・
 - ・生涯現役研究会は外部友好団体のスタッフも交え、高齢者就業の促進要因や阻害要因の研究を行い、これを政策提言できるように目下準備中。
 - ・ニュービジネス研究会はシニアベンチャー企業のあり方、事業目的、市場調査など、ケーススタディを含めた実践研究を、毎回実施中。
 - ・生涯現役活動を地域に広げるため、首都圏主要鉄道沿線ごとに会員が中心となって、各地域会を創設してきた。1990年設立の東急田園都市線の第1号から、昨年10月の「府中の会」15号迄をネットワークする広域研究会の組織も結成されている。
 - ・民間レベルでこれ迄生涯現役活動をテーマに培ってきた情報データやネットワークの潜在力は、自立した草の根団体として生涯現役社会づくりに役立つとの自信がある。

☆高齢者年への取組

昨年7月と12月に、国際高齢者年に標準を合わせた特別フォーラムを開催した。ホームページや会報で、国の内外にその紹介を始めている。「生涯現役社会づくり」を高齢者年にあたって積極的に提唱していきたい。



☆概要

高齢者協同組合は日本労働者協同組合連合会のイニシアティブにより各都道府県ごとに設立中。1995年「仕事・福祉・生きがい」を中心課題として「高齢者を寝たきりにさせない、しない」をスローガンに設立が開始され、昨年末迄に21都道府県で設立された。現在の組合員数は約15000人。今年中に全国組織を作る。三重と愛知は生協法による法人格を取得、他県でも申請中である。高齢者協同組合は、高齢者自身の自主的組織であり、出資金5000円を出せば、年齢を問わず加盟でき、脱退も自由である。

☆主な活動

- *公的介護保険の施行を前に当面は「福祉」に重点。既に6000人のヘルパーを教育し、各地でヘルパー事業も始まっている。また高齢者への在宅配食やデイサービス、グループホーム、宅老所、複合施設などの事業も多くの地域で始まっている。高齢者協同組合の地域センターをたまり場として福祉の拠点とする構想のもと、既に12か所の「地域福祉事務所」ができて、100か所以上で建設が予定されている。現在、介護共済の構想も浮上している。
- *「仕事づくり」の点では、共同購入、産直の店、朝市、リサイクル養鶏、葬送事業、出版、住宅改修、ふすま張り、植木の剪定など、さまざまな取組が進行中。
- *「生きがい」事業としてはパソコンや語学などの講座、ダンス教室、旅行、コーラス囲碁・将棋などの活動が行われている。

☆高齢者年への取組

昨年12月ベートーベン「第九」の合唱コンサートを日フィルと共に開催。今年12月にも千人規模の合唱公演を予定している。AARP（全米退職者協会）代表を招待しての国際シンポジウムを12月に開催する。

三井ボランティアネットワーク事業団

(略称:三井Vネット)

☆設立の目的

高齢者(シニア)にボランティア活動を紹介・斡旋し、或いは活動を企画立案してシニアの積極的な参加を求めることで生きがい支援を図りつつ、長寿社会の活性化と健康な国民生活の維持向上を図ることを目的として、平成8年10月三井グループ34社により設立。

☆活動の内容

1. 国際交流活動

東大及び千葉大の大学院留学生(含む家族)135名に対し、OB・OGが一对一で学業・生活・日本語指導などの交流を実施中。在日米商工会議所会員との交流も計画中。

2. 環境美化活動

国際クリーンアップ活動に協力、春秋年2回多摩川河川敷、及び秋の荒川河川敷における清掃活動を例年実施。

3. 医療・福祉活動

*病院ボランティア

日赤医療センター、東大病院での患者受付案内・図書貸出などの活動へ参加中。

*障害者支援活動

日本チャリティ協会での、障害者・高齢者向けイベント支援と内務事務応援、さらに障害者の作業所を支援する会での、作業所製品の宣伝活動支援など。

4. その他の活動

*「三井Vネット奨学金」

書損葉書を途上国の奨学金として寄贈。

*囲碁ボランティア

都内児童館の子供囲碁教室を指導。外国人記者クラブでの囲碁交流を計画中。

☆高齢者年への取組

*ニュースレター(四半期毎に発行)

によるOBあて情報提供。

*OBあてに資格・特殊技能

専門知識などに関するアンケートの実施を予定。



(社)虹の会

☆概要:大衆芸能を出行

*高橋圭三、玉置宏、牧伸二、はかま満緒、アントニオ古賀、二葉あき子、並木路子、坂上二郎、浅香光代などが語り演ずる、時代を映す「大衆芸能」を通じて、福祉の向上に貢献することを目的とする芸能人・文化人のボランティア団体。昭和54(1978)年設立の厚生省所管の公益法人。

*大衆芸能を愛し支えたオールドファンであるお年寄りへの恩返しと次代を担う子供達との「架け橋」として、大衆芸能の保存と伝承に力を注ぎ、「温故知新」の精神を生かして世代間交流と心豊かな社会の実現を目指す。

*1999年は創立20周年と国際高齢者年に当たり、ジャパン・ユニバーサルデザインフェスティバル、エージェレスコンサートなどの開催を高連協との共催で計画中。

☆主たる活動

1. 慰問事業

1987年から、日本財団の補助金を受け、会員芸能人・文化人と、全国の老人福祉施設を巡回慰問する「虹のキャラバン」を実施。「出会い、ふれあい、語り合い」をテーマに歌謡ショーやナツメロ、声帯模写、講談等で全国5500施設のうち2500施設を12年間で訪問し、今年年間240施設を巡回。

2. 委託事業

高齢者の生きがいと健康作りを推進するため国や地方自治体・公共団体が実施する高齢者向けの行事や催しに、会の特徴を生かして、会員芸能人・文化人が出演協力している。

3. 大衆芸能の保存と伝承事業

悲しい時、苦しい時、その折々、映画や歌謡曲、演芸、それにテレビ・ラジオなどでどれほどなぐさめられたことであろうか。高齢者文化振興の一環として、シルバーインテグレーション、虹の芸能館を開催し、大衆芸能の保存と伝承に努めている。

(財)日本チャリティ協会

☆活動の概要

高齢者・心身障害者（児）などの社会復帰の援助・振興を図り、社会福祉事業の発展に寄与することを目的として、昭和41年に設立され、主に次のような事業を行っている。

- ・知識・教養のための各種文化事業
- ・スポーツ振興のための各種事業
- ・生活更生のための技術指導と相談事業
- ・公共団体および民間福祉施設・団体などの福祉活動に対する協力
- ・豊かで生きがいある暮らしづくりと、社会参加を推進するための諸事業

☆アピールポイント

協会発足以来、高齢者・障害者（児）などを対象に、もっぱら行政の手の及ばない分野をカバーするとともに、福祉の文化・知的開発を志し、30年余にわたり多彩な福祉活動を展開し、事業内容のユニークさと数々の実績は社会的に高い評価を得ている。

＜主な高齢者対象事業実績＞

- ・シニアコーラスコンクール（3回）
- ・高齢者のカラオケコンクール（104回）
- ・女性リーダー研修会
- ・高齢者の日常生活のバリアフリー調査
- ・バリアフリーパトロール隊 ほか多数

☆高齢者年への取組

*'99第3回シニアコーラス・TOKYO
フェスティバル

日 時：平成11年3月8日（月）

会 場：なかのZEROホール

参加者：45組 1500人

*'99第1回 シニアフラグンス フェス
ティバル

日 時：平成11年5月23日（日）

会 場：東京厚生年金会館大ホール

来場者：2000名

エイジングメッセ99イン早稲田

☆活動のねらい

エイジングメッセ99イン早稲田は、国際高齢者年にあたり「アクティブエイジングによる社会づくり」をテーマに、早稲田大学全域を会場として展開するイベント。

従来の福祉機器展などとは異なり、高齢社会を「新しい社会づくり」としてとらえ、地域・市民・企業・行政・大学が参加して、新しい社会のための「産業づくり・市場づくり・まちづくり・ライフスタイルづくり・社会システムづくり」に取り組む初めての試み。

主催はエイジングメッセ99イン早稲田実行委員会、早稲田大学周辺商店連合会、早稲田大学教授・学生・OB、高齢者関連NGO・NPO、行政により構成されている。

☆アピールポイント

*NGO・NPO、企業、行政等、来るべき高齢社会に取り組む者であるならば、原則として、早稲田大学エリアを無料で利用し出展参加できる。（ただし、参加に際して実行委員会の承認が必要。）

*大学と7つの周辺商店街を会場として利用できるため、参加形態は単なるモノの展示にとどまらず、教室を使ったフォーラムやトークショー、校内のフリーマーケット、大隈講堂や国際会議場を使つての講演会、国際会議やコンサートをはじめ、街を使つたシミュレーションなど、それぞれの団体にあった多様な形式で出展参加が可能。

*イベントは単発でなく毎年継続的に続けることを計画している。

☆イベント内容

以下の3本柱が中心。ふるって各団体からの講演や出展参加をお願いしたい。

*フォーラムおよび自治体セミナー

*各NGO・NPOによるエイジング文化祭

*企業・公共団体エイジングメッセ



発行：高齢者年NGO連絡協議会事務局

住所：〒140-0004東京都品川区南品川5-3-10-5F

TEL03-5461-0839 FAX03-5460-9820

国連より国際高齢者年担当が来日

・・・政府・高連者団体と有意義な交流・・・

3月下旬総務庁の招きにより、国連の国際高齢者年担当である、ブリジット・ドネラン女史が来日した。昨年暮にフォーカルポイント（国の責任窓口）に指定された総務庁は、やっぎばやに数々の企画を打ち出し実行中であるが、これもその一環である。

3月24日来日のドネラン氏は、国連経済社会局の社会政策・開発部担当官で、かつ、国際高齢者年に関するスポークスパーソン。関係先とのスケジュールを精力的にこなし、3月25日（木）午後関係省庁連絡会議で講演のあと、翌26日（金）午前、高齢者関連団体連絡会議に出席し、約70名の参加者を前に1時間余にわたり講演した。

同氏の講演は、予想に反して国連高連者年のスケジュールや国連高齢者5原則などには一切言及せず、文化的視点（from the cultural point of view）で考察したいとの前提で、自己の豊富な体験を折り込みながら、高齢化問題のフィロソフィーを語った。それらの多くは、高連協が部会を設けて検討中の「高齢者憲章」の検討にあたって、数々の示唆を与えてくれるものとなった。その若干をここに紹介すると・・・。

- * 高齢者問題の本質を見ようとする時、ある時は広角レンズで、ある時は望遠レンズで、またある時は、レントゲン写真的に考えてみる必要があろう。地球的規模で、21世紀を見通しながら、問題の本質を深くえぐるものが求められる。
- * 国連提唱のテーマ「すべての世代のための社会をめざして」を考える時、高齢者年ロゴマークの同心円を想起してほしい。この同心円は、一つは個人の発展段階を象徴しつつもう一方で、個人を取りまく家族・地域・国家を象徴している。
- * 従来の高齢者像は、とかく2つのP、Patient（患者）とPention（年金）でとらえられていたが、これからは、高齢者をGiving（与える）とReceiving（受け取る）の双方のアプローチでとらえていく必要があるのではないか。
- * 高齢社会では時間の柔軟性が肝要と思われる。例えば高齢者や女性の労働力参入はますます重要となろうが、仕事時間の柔軟性を確保するための配慮が求められよう。それを人のライフサイクルで考えた場合、子供の時に勉強し、大人になったら働き、年寄りになったら余暇を楽しむというのではなく、生涯を通じて学習・労働・余暇の配分を考えるべきであろう。
- * 高齢者年テーマ「全ての世代の社会を目指して」との関連では、「年齢別区分」の検証が必要と思われる。その意味では単一年齢層より、例えば子供と高齢者の絆の大切さを認識する必要がある。
- * 上記のような理念の実現を図るためには、持続可能なインフラの整備と、NGOの協力が必要と重要である。



さをりひろば

(財) 高齢者住宅財団

☆活動の概要

個性を尊重した新しい手織を通じて、高齢者や障害者の福祉向上に寄与する活動を行う。

- ・一般市民と共に新しい手織を通じて社会参加の機会を作り、生き甲斐の提案を行う。
- ・国内外の指導者の要請を行い、指導に対する研究や要請された指導者の派遣を行う。
- ・障害のある人々の芸術活動を支援し、“とっておきの芸術祭”を開催する。
- ・国際的な障害者芸術支援団体であるVSA (J.F. ケネディの末妹が代表) に連係し、国連ESCAPの活動にも協力する。
- ・タイ、バンコクの直営塾には専任の講師を派遣し活動を行っている。

☆アピールポイント

「さをり」は老若男女、障害の有無、また国境を越えて、全ての人が平等にできる手織物のプログラム。感性を表現すること。自分のなかに眠っている自分との出会い。人間性の回復や自己の実現を可能にしてきた。

創始者の城みさを(来年米寿を迎える)は、1990年厚生大臣表彰、1992年に内閣総理大臣表彰を受ける荣誉に恵まれる。

昨年名古屋で開催された「ねんりんピック」のシルバーファッションコンテストにおいて“さをり”の仲間が最優秀賞を受賞する。

☆高齢者年への取組

セニアさおり計画の実施 各種イベント参加

- ・城みさを講演会とファッションショー
- ・ボランティア養成講座、講話ほか毎月実施
- ・高齢者施設での指導 1月～
- ・アジア太平洋VSAフェスティバル in OSAKA99 近隣の8ヶ国による国際会議と芸術祭5/26



☆設立趣旨

超高齢社会を迎える我が国にあって、住宅政策と福祉政策の連携のもとで、高齢者が自立し、安心・安全・快適に暮らしてつづけられる住まいづくりを進めていくこと、それが当財団の設立目的である。

☆活動の一端

- * 高齢者住宅を計画的に進めるための、地域高齢者住宅計画の策定調査実施。
- * 高齢者向け住宅・関連サービスをテーマとしたセミナー・シンポジウムの開催。
- * 国際高齢者年のキックオフイベントとして昨年10月に「住み慣れたところで暮らしつづけるために」と題する記念シンポジウムを開催。
- * おもな出版活動としては、下記のとおり。
「財団ニュース」(機関誌、年6回)
「長寿社会対応住宅設計指針マニュアル」
「高齢社会の住まいと福祉データブック」
「高齢者向け優良賃貸住宅制度の解説」
- * 各事業体が高齢者住宅を立ち上げるときの事業化支援。
- * シルバーハウジングに置かれる生活援助員の育成。
- * シニア住宅「ボナージュ横浜」・「稲毛海岸」での24時間体制の管理。
この管理の成果は事業化支援や地域高齢者住宅計画の策定にフィードバックされ活かされており、こうした業務の取り組み方も当財団の特徴といえる。

今後、高齢者一人・夫婦のみ世帯が急増するなかで、高齢者を見守り、相談にのり、適宜適切に、医療・保健・福祉サービスにつなぐソフトなシステムが欠かせないものになると考えられる。こうしたシステムの構築も当財団に課せられた課題の一つと考えている。

(財) 全日本社会教育連合会

☆活動の概要

*「社会教育を振興させ、日本国憲法の精神に基づき、健全な民主主義思想の普及徹底に寄与する。」ことを目的に、米軍占領直後の昭和20年財団として設立。戦前の「教化」教育から脱皮し、民主主義を普及するためのシステムとして誕生した。

*それに伴う情報媒体として、昭和21年7月雑誌「教育と社会」を創刊。当時は大蔵省印刷局にて印刷され、定価は1円。昭和25年に「社会教育」と改題して、以後54年目の今日に至る。現在毎月1日発行。普通号は年10回、増大号は年2回発行。全国の教育委員会の学習事業担当者、社会教育施設(図書館・公民館・博物館等)の学習講座担当者、市町村部局の生涯学習担当者、学校、大学、労働組合、カルチャーセンター公開講座、研究所、NPO・ボランティア団体、地域活動家などに幅広い読者を持つ。

☆アピールポイント

高齢社会対策基本法においても「生涯学習」は重要な位置を占めており、この点から、高連協に協力していきたい。NPO・NGOのつなぎ手としての役割を果たしていきたい。

☆高齢者年への取組

- *「社会教育」99年1月号にて国際高齢者年を巻頭から35ページにわたり特集。その中で高連協を紹介。99年の各号には「国際高齢者年情報コーナ」を設置。また1月号より「少子・高齢化」を連載。
- *書籍として「高齢社会と生涯学習」を昨年7月に刊行。その中でも、国際高齢者年、高齢社会対策大綱、各国の事例を紹介。
- *本年11月に「国際高齢者年記念、ヨーロッパ社会教育視察」事業を行う予定。イギリスのエイジコンサーンや、ローマ市立憩いの家などを視察予定。

(財) 生涯学習開発財団

☆概要

昭和58年(1983年)4月設立認可の、文部省所管の公益法人。設立目的は、「心身の健康を基礎にした、自立的・創造的な生涯学習に関する調査、研究、研修を行い、もって社会教育の発展に寄与すること」である。

☆アピールポイント

現在でこそ「生涯学習」の言葉は定着しているが、設立時には当財団が官界学会言論界を集めて「生涯学習」についての研究会を1年間主催し、意見を報告書にした。その結果として、季刊誌「ライフ・ラーニング」の発行は、生涯学習の方向を示す先駆的事業として注目された。

現在財団ではこの人材DBも含め、高齢者の経験と実績を活かした生涯学習講座の開講を企画中である。

☆事業内容

1. 毎年、文部省他の主催で行われる「生涯学習フェスティバル」に参加し、財団開発の「生涯学習適正診断テスト」は個々人の学習のきっかけ作りのお手伝いをしている。とくに定年退職した仕事人間に、これからの生き方を考える機会を提供。昨年は97万人が入場した「まなびピア兵庫'98」の会場で活用された。
2. 会員向けに、全国紙及び地方紙から生涯学習関係記事をクリッピングして、提供している。本年は国際高齢者年の記事を重点的に提供している。
3. その他、会員交流事業、出版事業、国際ボランティア事業を行っている。



(財)日本火災福祉財団

日本火災福祉財団は、企業も高齢社会への対応が不可欠であるという考えのもとに、高齢者福祉に関する諸活動や研究を通じて、社会貢献を行うため、1991年に日本火災海上保険(株)によって設立された。

☆地道に、助成活動

1. 痴呆性老人をかかえる家族への支援事業
社団法人「呆け老人をかかえる家族の会」の研修・交流事業を支援している。

痴呆性老人を介護する家族が、お互いの苦しみ分かちあうことにより希望が与えられ、また、介護で大変な緊張を強いられる家族に一時の安らぎの場が提供できればと支援している。

2. 介護福祉士養成のための奨学金給付
介護保険実施に当たり教育されたマンパワーの不足が問題になっている。その対策の一つと思い、介護福祉士を目指す学生に奨学金を支給(指定校制)している。

3. ジェロントロジ(老年学)研究助成事業
高齢者及び高齢社会問題の研究、特に、遅れている社会科学分野(社会福祉学、心理学、社会学等)の研究助成を行っている。
全国の大学、研究所、教育機関、高齢者福祉施設の関係者などを対象に公募している。

☆よろしく! 高連協と誕生日が一緒

高齢者や高齢社会をめぐる問題の解決に向けての研究を通じて、長寿社会の発展のために寄与することを目的とし、社会老年学研究所を1998年10月に開設した。



towards a society for all ages

あどりぶ倶楽部(シニア研究部会)

☆活動の概要

*あどりぶ倶楽部は、主要企業約200社の広告・広報担当課長たちが33年前に異業種交流的に結成した「あどりぶ会」を母体としそのOBたち80余名で構成されている。

*定年を迎えた会員たちは年間にわたる種々の行事をととして、現役時代と変わらぬ自由闊達な交流を続けてきた。その中に3年前に生まれた「シニア研究部会」では、全米退職者協会(AARP)の活動を現地視察してきた会員の問題提起を受けて、日本におけるシニア世代の共通課題や、シニア社会活性化の方策などについて真剣な討議を重ねて今日に至っている。

☆アピールポイント

*産業のあらゆる業種をカバーする会員構成と、マーケティングをととして与論づくりを本業としてきた私どものヒューマン・ネットワークには、これまで日本の経済生活向上に寄与してきたささやかな自負がある。

*今後は、世界最大のシニア年代層が生じてくる日本の社会を、いかに明るく活力のあるものとして再構築していくかについても黒子的な頭脳集団として役立ちたい。

*また、コミュニケーションの専門技能を、シニア・グループ連携強化のパイプ役に使いながら、わずかつづでも貢献していきたい。

☆高齢者年への取組

*今回の「高連協」の発足は、後世に役立つ画期的な胎動と考え、皆さんのお仲間入りをさせていただいた。

*これまでもいくつかの団体との交流を持たせていただいたが、今年をシニア連携活動の出発点ととらえて、皆さんとの息の長い協力関係を築いていきたい。

発行：高齢者年NGO連絡協議会事務局

住所：〒140-0004東京都品川区南品川5-3-10-5F

TEL03-5461-0839 FAX03-5460-9820

高連協選定

国際高齢者年スローガン

決定！

高連協の国際高齢者年スローガンが決まった。

高連協では、自ら考え、自ら表現し、自らで決定することを前提に、私達の組織に最もふさわしいスローガンを掲げることを検討してきた。第一次案として2月16日の定例会に46編の原案が提出されたのを皮切りに、憲章部会、定例会、郵送などによる検討経過を経て、絞り込まれた7編が3月31日の定例会で全員投票に付された。

その結果、次のとおり、最優秀作1編と、優秀作2編が決定された。今後は高連協及び加盟の各団体はもとより、マスコミ、各省庁、自治体、高齢社会関連団体などにおいて、このスローガンがPRされていくことを期待したい。

最優秀作

すべての世代でつくろう ふれあい社会

優秀作

☆次代へ引き継ぐ豊かな日本・・・伝えよう歴史と文化 守ろう自然

☆生かそう知恵と豊かな経験 社会を支える高齢パワー

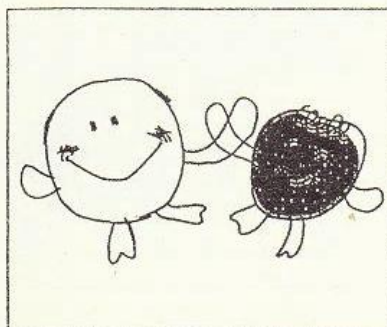
総務庁選定

「国際高齢者年」 マスコットキャラクター

決定！

日本のフォーカルポイント（国の責任窓口）である総務庁では、「国際高齢者年」におけるマスコットキャラクターを、広く一般国民から募集した。全国の5歳から83歳まで、合計517点の作品が寄せられ、審査の結果、このほど総務長官賞として最優秀作品1点、優秀作品3点、あわせて4点が選ばれた。

右のキャラクターが最優秀作品に選ばれたもので、「ハートフルな男女の高齢者をモチーフに、ますます元気に、ますます楽しく、ますます豊かにこれからの高齢化社会に向かって、自分たちの力でエンジョイしていく姿を、かわいいおじいさん・おばあさんのマスコットにした。」という。



(社)福祉社会研究所

☆活動の概要

＊設立目的・・・福祉社会に関する調査研究と福祉意識向上のための啓発普及活動を行い、国民相互の連帯を進め、積極的に働きがいと生きがいの実現に努めることを目的とする。

＊沿革・・・1978年設立、1980年法人認可（厚生省大臣官房政策課）現在に至る。

☆アピールポイント

＊①高齢化対応、②生涯学習を主とする他に福祉課題解決のための調査研究と政策提言。

＊科学的実証的な調査研究の成果をもって、福祉課題解決に迫るのがセールスポイント。

＊成果を一般社会に還元するために、公開の講演会、シンポジウム、出版刊行等を行う。

☆高齢者年への取組

- 講演とシンポジウム（7月中旬）
 - ＊総合テーマ「世界の高齢者文化を語る」
 - ＊基調講演「世界の高齢者福祉の動向」
 - ＊シンポジウムの柱
 - ・家族と地域コミュニティ
 - ・65歳現役社会
 - ・介護保険の実施
- 高齢者海外研修ツアー（8月末～9月）
 - ＊訪問先・・・オーストラリアのメルボルン・シドニーの福祉施設と生活の場を視察。
 - ＊募集人員・・・約30名。
 - ＊費用・・・6泊7日で45万円以内（予定）
 - ＊日本老人福祉財団と共済予定。
- 座談会・シンポジウム（11～12月）
 - ＊オーストラリアツアーの課題解決の討論。
 - ＊高齢者年を総括するシンポジウム。



キャリア・コンサルタント協同組合(CCK)

☆活動の概要

＊豊かな実務経験を持つエキスパート達が、深い専門性と最新の知識を結集して、幅広いジャンルの実践的経営ノウハウを提供すべく1995年に結成した協同組合。

＊別に組織されているキャリア・コンサルタント協会(CCA)と一体化し、キャリア・コンサルタント・グループ(CCG)として運営している。現在の会員数は約150名、うち3分の1が組合員である。

＊具体的活動としてはベンチャー企業支援、アウトソーシング、ISO認証取得支援、研修セミナー、コンサルティング、社会調査などの幅広い範囲を含んでいる。

また、自立支援、会員同士の研鑽、情報交換と相互扶助を通じて、全員のレベルアップを図っている。オープンな組織であり、どなたでも入会を歓迎する。

☆アピールポイント

定年退職した元企業戦士、定年を控えて今後の生き様を模索する中高年者の持てる力を、そのまま埋没させるのはあまりにももったいない話。生涯現役として、これを社会に役立たせたいと大きな願望を抱いている。

☆高齢者年への取組

高齢者対策といえば、とにかく、医療・介護・福祉といった面に注目が集まるが、逆に生涯現役を標榜する元気な中高年者仲間が手を組み、互いに自立を助けることによって、高齢社会の活性化と老化防止にいささかなりとも役立ちたい。

小規模団体ゆえ、自らが中心となってイベント等を主催することはできないが「高連協」関連の団体とは積極的に連携を取り、ご協力させていただきたい。

マスコットキャラクター優秀賞

(財) 高齢者雇用開発協会

☆活動の概要

企業における高齢者雇用を促進し、高齢社会への円滑な移行に寄与するため、1978年産業団体の出資により設立された労働省認可の財団法人。

60歳定年が昨年4月より法制化されたことに伴い、希望すれば65歳まで何らかの形で働くことができる「65歳現役社会」の実現に焦点を合わせ、各種事業を展開している。

☆アピールポイント

* 高齢者の雇用を実現するには、賃金など処遇制度の再検討、職場改善、健康管理、教育訓練など、さまざまな課題がある。

当協会は、このような課題に対する総合的サービスを準備・提供できる、わが国唯一の全国的な団体であり、具体的サービスは、各都道府県に設立されている同種の協会によって提供される。

* 企業は、高齢者雇用アドバイザーによる相談助言、パソコンによる簡易型企業診断システムの活用、アドバイザーとの共同で具体的改善案をつくる企画立案、協会との共同研究、高齢者雇用促進のための各種給付金の支給など、さまざまなサービスを利用することができる。

* 当協会の月刊誌「エルダー」は、高齢者雇用の現状と将来、企業における具体的な改善事例・調査研究成果の紹介、各種研修講習のお知らせなど、高齢者雇用問題を網羅した総合専門誌である。

☆高齢者年への取組

種々背景を異にしながらも共通の関心事である「高齢者の雇用・自立・社会参加の促進」について、日欧米が素直に意見を交換し学び合い、活力ある高齢社会の建設に資するため労働省と共催で、9月に国際シンポジウムを開催する。

(マスコットキャラクター優秀賞) JFCA

(社) 日本家庭生活問題研究協会

☆活動のねらい

昭和39年(1964年)に前身の「家庭生活懇談会」がスタート、翌40年に、より有意義な活動を持続するために現在の社団法人(JFCA)へと拡大・発展した。

各家庭から地域・社会に至る迄の問題や課題を調査し、分析・研究することにより、家族が安心して暮らせる豊かな家庭生活の創造に寄与することを目的に活動している。

☆アピールポイント

1. 少子・高齢化を始めとする家庭や家族を取り巻く問題についての独自の調査や、委託助成研究の成果をもとに、自治体や行政、企業や団体に政策提言・活動提案を行い、シンポジウムなどにより広く情報を提供する。

2. ニュートラルな立場で、家庭・NPOと行政・企業とのインターフェイスを担うとともに、NPOの育成・指導・広報などの支援活動を行う。

3. 企業との連携によって、ソーシャルマーケティングの一環として、社会と共生できる生活者主導型の企業活動を提案し、企業が市民・生活者の真のパートナーとして信頼を得る支援を行う。

☆高齢者問題に関する取り組み

* 定期セミナーの一環として

「昨今の高齢者の資産管理について」

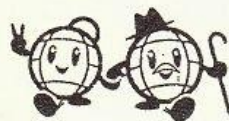
* 情報交換フォーラムの一環として

「介護保険を生かす 介護保険への期待」

* イベント「ハートフルインターネットフェスタ・岐阜」の主催

* 自分史支援ソフト「自分伝説」の販売代行

* 研究会「情報通信ネットワーク時代と高齢社会の融合」実施予定



生活・福祉環境づくり21

はみんぐ倶楽部

☆設立の趣旨および活動概要

＊「生活・福祉環境づくり21」では、東京商工会議所と連携をとりながら、真に生活者が望む商品・サービス・システムの低コストでの提供を可能にするなど、高齢社会における諸環境の整備を進め、「豊かで潤いのある社会、生活者が将来の不安を持たずに暮らせる社会」を実現していく。

＊そのため、企業、行政、生活者、医療・福祉団体などのネットワーク化をはかり、企業が福祉関連ビジネスに参入しやすくなる環境づくりをしていくとともに、生活者にとって必要な情報や、企業にとって役立つ情報の受発信、人材育成の観点からの新たな研修制度の創設など、多方面にわたる事業を展開中である。

＊1998年7月設立、会員数95。当団体としてNPO法人化をめざす。

☆事業活動

1. 行政、生活者、関連団体などとのネットワークの構築の推進に関する事業
2. 情報収集・提供機能の強化に関する事業
3. 調査・研究事業・・・例えば
 - ＊住宅改修のあり方
 - ＊在宅ケアを中心とした地域コミュニティのあり方
 - ＊民間事業者評価システム
4. 地域福祉活動の支援に関する事業
5. 広報PR事業
6. 人材育成事業

☆トピック

- 福祉住環境コーディネーター3級検定試験
 - ＊試験日 : 1999年5月23日(日)
 - ＊試験会場 : 東京、横浜
 - ＊受験資格 : 学歴・年齢・性別・国籍などの制限なし
- ♣受験対セミナーを当団体が開催したところ全国より約2000名が受講した。

☆活動の概要

中・高年が将来にわたり充実した生活を実現するための、自己探究と生きがい探し、仲間作りをアシストすると同時に、自立したいいきいきシニアの全国ネットの構築をめざして、平成5年に設立。現在各種イベント・出版物の発行など、多岐にわたる活動を精力的に展開中である。

☆アピールポイント

＊元気で好奇心旺盛なイキの良い会員で組織されているわが団体は、文句なしに楽しさと明るさに満ちあふれている。

＊活動内容も36の自主サークルがあって、アウトドア系から文化的なものまで、ありとあらゆるメニューが揃っており会員の満足度100%。

＊もちろん遊びだけではない。社会貢献を念頭に置いたボランティア活動も行っている。そして、一番の自慢は、会員個々の自主性を大切にしている点である。事務局はあくまで舞台の黒子であり、主役は会員の面々。

＊しかも、いざという時の相互扶助の仕組みがしっかり組織内に出来上がっているので、安心というキーワードが生かされている。

☆高齢者年への取組

＊5月9日(日)単体で頑張っている草の根サークルを集めた「中・高年サークル祭り」を江戸・東京博物館で開催する。

＊同時にサークルをデータベース化し、情報の共有化を図っていききたい。

